

# 深い悲しみ 何年たっても

スキーバス事故38年 長野で遺族ら追悼



次女の多恵子さんら犠牲者の冥福を祈る南郷トヨ子さん(手前)＝長野市信更町で

長野市信更町の犀川ダム湖にスキーバスが転落し、日本福祉大(美浜町)の学生ら二十五人が死亡した事故から二十八日で、三十八年となった。遺族や大学関係者ら二十六人が事故現場

の慰霊碑を訪れ、祈りをささげた。

同大の丸山悟理事長は慰霊碑の前で「深い悲しみと無念の思いが胸に迫り、責任を痛感している。事故があった一月二十八日をいつ

までも忘れてはならない」と誓い、参列者は花を手向けて冥福を祈った。福岡市の南郷トヨ子さん(左)は、事故で次女の多恵子さん＝当時(右)を亡く

した。前夜に受話器越しに「気を付けてね」と声をかけたのが最後の会話だったという。「何年たっても、ここに来ると娘の顔が浮かんで…。かわいかったんで

すよ」と涙ぐんだ。

事故は一九八五年一月二十八日の午前五時四十五分ごろに起きた。スキー合宿で志賀高原に向かうバスが国道19号でスリップし、ダム湖に転落。学生十二人、教員一人、乗務員二人が死亡した。

(吉田拓海)

## 40周年

バスができて四十周年の節目。他にもキャンパスがあるものの、大学の学園広報室によると、美浜では付属高の生徒を含めて四千人近い若者が学んでいます。

一方、少子高齢化が進む町では、児童生徒数の一層の減少を見据え、五小学校と二中学校を統合して小中一貫化する検討が進みます。四月には町長選が控えており、すでに二人が立候補の意向を表明。選挙戦になりそうです。身近な大学を町づくりはどう生かすのか。具体的なビジョンを聞きたいと思えます。

(半田支局長・北村剛史)

広がる農地や山林を背景に、駅からキャンパスに向かう学生たち。初めて美浜町の日本福祉大美浜キャンパスを訪ねたときに見た、のどかな光景が印象に残っています。同大学から初めて、女子プロバスケットボール・Wリーグデビューを果たした遠藤真帆選手は、町の第一印象について「バスケットに集中できると思った」。新型コロナウイルスの感染拡大で練習ができない時期には、町内の神社でトレーニングを重ねたそうです。「集中」の成果で、美浜から大きな舞台に羽ばたきます。二〇二三年は美浜に大学のキャン

## デスク席から